

肢体不自由

障害の内容や程度はさまざま。その人に合った配慮を

「配慮してほしい」ポイントを確認

障害の程度や状態は人それぞれ。どのような配慮が必要かを患者に確認しましょう。患者は、自分の障害、配慮してほしいことをメモなどで準備し、受診時に手渡すとスムーズです。

受付から呼び出しがあっても すぐに動けない

窓口まで移動するのも一苦労。診察券の返却などの場合は、できれば患者のところに届けてもらえると助かります。



マイナンバーカードの 認証機器は低い位置に

受付カウンターが高く、マイナンバーカードの認証（顔認証・暗証番号）ができないことがあります（介助者に個人情報 は伝えたくありません）。



肢体不自由とは、先天性や後天性の病気や事故などによる麻痺やケガなどにより 上肢・下肢・体幹の機能の一部、または全部に障害があるため、日常生活の中での 動作が困難な状態のことです。肢体不自由の程度は一人ひとり異なり、知的障害 等を伴う重複障害の場合もあります。車椅子や杖を使用する人は、日常生活のさ まざまな場面でサポートが必要な場合が多く、また、上肢に障害がある場合は物 を「つかむ」「持ち上げる」といった動作が難しいことがあり、多くの場面で支 援が必要。サポート内容は障害の種類や程度によって異なります。地域で福祉サ ービスを利用しながら自立生活をしている方も多く、生活環境もさまざまです。



つづに注目

地域の病院を受診したい人も 重症心身障害（※）

重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複している状態（重複障害）。ほかにも、緊張性の亢進、側弯や胸郭の変形、摂食・嚥下障害、呼吸障害などのほか、感染症にもかかりやすいなどさまざまな障害、合併症を呈します。障害の程度は人によりさまざまで、中には地域の病院を受診したい人もいます。事前に病歴、服薬情報、手術歴などを確認しましょう。待機スペース、おむつを替えられるスペース確保などの配慮があると受診しやすくなります。※医学的診断名ではなく児童福祉法上の行政の呼び名（定義）

待合室以外の場所で待てる工夫を

感染症にかかりやすいので、屋外、車の中、別室などで待機できると、安心して待つことができます。

検査の予約時間は 診療時間の最後などに

レントゲンや血液検査といった場合、手間も時間もかかるので心苦しく感じがち。できれば、診療時間の最後に予約をとるなどの配慮を。

こんな
ことも…

□ 問診票を自分で書けない人もいます。患者が承諾していれば病院職員に代筆してもらう場合もあります。

